

多人数授業の評価アップへの挑戦

国語教育・渥見秀夫

1. 授業の概要

(1) 目的

読書と図書館についての関心・識見を持ち、豊かな人間性を培い、よき読書人・よき図書館人となる。

(2) 内容

- 第 1 回 目的・方法（シラバス）の確認
課題作文「読書と豊かな人間性」
- 第 2 回 課題作文の紹介・講評
講義「人間生活と読書」
- 第 3 回 前回感想の紹介・講評
講義「情報社会と読書」「家庭と読書」
- 第 4 回 前回感想の紹介・講評
講義「学校と読書」
愛光学園図書館見学の事前指導
- 第 5 回 A 班・愛光学園図書館見学（感想文提出）
- 第 6 回 B 班・愛光学園図書館見学（感想文提出）
- 第 7 回 愛光学園図書館見学事後指導（感想文の紹介・講評）
「読書案内」作成について
- 第 8 回 講義「教科と読書」「総合学習と読書」
- 第 9 回 前回感想の紹介・講評
講義「読書指導における司書教諭の役割」
- 第 10 回 前回感想の紹介・講評
講義「図書委員会・学校行事と読書」
- 第 11 回 前回感想の紹介・講評
講義のまとめ。「読書案内」提出
- 第 12 回 図書館活動・読書指導例の紹介
——ビデオ『図書館を生かす 学校は変わる』（山形県鶴岡市立朝陽第一小学校）
- 第 13 回 「読書案内」紹介・講評・返却
- 第 14 回 試験——課題作文「読書と豊かな人間性」
- 第 15 回 試験の講評・全体のまとめ

(3) 受講生 113名

(内訳) 2 回生

79名

学校教育 53名

障害児教育 22名

情報文化 4名

3 回生 8名

4 回生 24名

大学院生 2名

2. 受講生の授業評価アンケートから

(1) 関心・興味（実人数）

【昨年度】

5 (84) 4 (74) 3 (9) 2 (1)

【今年度】

5 (65) 4 (41) 3 (2)

(2) わかりやすさ

【昨年度】

5 (67) 4 (96) 3 (6)

【今年度】

5 (72) 4 (33) 3 (3)

(3) 教員の意欲・熱意

【昨年度】

5 (126) 4 (38) 3 (4)

【今年度】

5 (95) 4 (13) 3 (0)

(4) おすすめ度

【昨年度】

5 (89) 4 (73) 3 (7)

【今年度】

5 (78) 4 (27) 3 (3)

3. 受講生の記述から

- この授業を通して他学生の考えをたくさん聞き、小学校・中学校・高校の実践例・図書館報などを数多く見てきて、自分なりに学校図書館について考えることができた。まず「開かれた図書館」であることが大切だと思う。(略) 次に、愛光学園の図書館のように様々な種類の本をとりそろえるようにしたい。(略) 最後に、図書館司書教諭として、図書館を利用する子どもたちとは笑顔でコミュニケーションがとれる教師になりたい。(略)

- ・本講義を受けるまで、学校に図書館があるのは当然で、本好きな人か、調べごとをするときに利用する所ぐらいに思っていた。しかし、学校図書館はもっと大事な所で、学校の中心的な存在なのだと思うようになった。
- ・本は人を育てるということを以前はあまり意識することなく、ただ何気なく本を読むことが多かった。しかし講義を受けているうちに、本が秘めている力を感じ取ることができた気がする。先生に「海のいのち」「おじさんのかさ」を読み聞かせてもらったときに感じた、言葉では言い表せないけど心が揺れ動く、あの感じが本の持つ力なのと思った。子どもたちは、それを体験していく中で心が育っていくのだろう。
(略)しかし、いつも本の中だけで学べばよいのではないことも学べた。実際の体験に基づく学びと本の中での学びとの相互作用によって、豊かな人間性が磨かれていくという考えを持つことができるようになった。
- ・受講する前から「読書と豊かな人間性」とはどんな授業だろうかとワクワクしていたが、期待通りにこの授業は興味深く、学ぶことも多かった。中でも、他の学生の読書や図書館に対する考えを知ることができたことが大きかった。
- ・この授業の間中「楽しい」と思い続けていました。本のよさ・司書教諭の仕事の意味を知るにつれて、本や図書館の世界に入ることが楽しくなりました。渥見先生の他の授業でもそうなのですが、本に触れることの苦痛を取り除いてもらったような気がします。
- ・この授業を受け、読書の楽しさ・図書館へのこだわり・豊かな人間性についてなど、楽しく感じとることができました。渥見先生の楽しさが伝わり、こちらもうきうきしてくる授業でした。
- ・私は大学に入学してから、この講義を受ける前まで「読書は大事だ！」とわかっているながらも、時間がないということを言い訳にして、ほとんど本を読むことがありませんでした。しかし、この講義を受け始めてから、「時間がないのではなく、自分の心に本を読む余裕がないだけで、気持ちの問題ではないか」と考えるようになりました。

読む時間は、見つけようと思えばたくさんありました。電車に乗っている間や空きコマの時間、どこかで友人と待ち合わせている時間など、ほんの少しの時間でも本は読めるのだと気付くことができました。それからは、必ずカバンの中に一冊は本を忍ばせることにしています。先日も、待ち合わせの時間より早く着いてしまった時に、カフェに入り、コーヒーを飲みながら本を読んでいた。そういった何気ない時間にそっと本を開くということがなんだかとても素敵だと感じられるようになりました。そんな風に思えるようになったのも、この「読書と豊かな人間性」という講義を、渥見先生にさせていただいたからだと思います。渥見先生自身が多くの本と出会い、そこから豊かな感性・人間性を培ってきているということが、先生の一言一言から伝わってきて、自分もそんな風に「多くを語らなくとも大事なものが伝えられる人になりたい！」と強く思いました。読書を通して人間性を豊かにしてだけでなく、本を読んだ人から伝えられるものを通して、人間性を豊かにしていくのもアリだなあと思います。

- ・先生の話している言葉の一つひとつが私の胸にすごく響いてきました。私も、子どもの心の奥に響くような話し方・声のかけ方を心がけていきたいと思っています。

4. 自己評価

3年目の授業。昨年度の評価が初年度より落ちてしまったのが悔しくて、年甲斐もなくリベンジに燃えた今年度であった。

初年度を受講生は87名であったのに、昨年度は202名に急増したため、多人数の講義にふさわしい教授方法に課題を残したとの反省のもとに今年度の授業に臨んだ。

全体の構成と各授業の構成を見直した。講義と実践（学校図書館見学や読書案内作成）のバランスを見直した。幸いに、受講生が113名と半減した。毎時感想を求め、その感想から30前後をピックアップしてプリント化するのには時間を要する作業ではあったが、昨年度の202名を思えば、負担感は少なかった。多人数を覚悟の授業とは言え、授業者・受講生双方の満足のためには、このあたり（100名前後）が限度ということなのであろう。